

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 87

2023.5.15 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 87 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ：『書のまち春日井の書道文化』

—小野道風顕彰活動の記録—

講師：安達 柏亭（春日井書道文化研究所代表）



講演する安達 柏亭氏



会場風景（写真右端石黒市長）

『書のまち春日井の書道文化—小野道風顕彰活動の記録—』という書籍が出版されました。「春日井は平安時代の能書家小野道風の生誕伝説地であり、書道が盛んな土地柄であることから“書のまち春日井”を標榜し書道文化の振興に努めています。……道風はどんな人だったのでしょうか、道風の書はどのようなものでしょう、そもそも、本当に春日井でうまれたのでしょうか……」『はじめに』より、何故「書のまち春日井」と言われるようになったのかなど、研究成果を語っていただきました。参加者は、15名でした。

尚、石黒直樹春日井市長も公務多忙の中参加されました。石黒市長は、予てから市民活動には、関心を持たれておられます。自らも中部大学客員教授として、学術研究の視点で、「まちづくり」、「地域活性化」について研究を続けてこられています。「地道な市民活動の集積こそが地域活性化の源泉である」との価値観は、本会と共有できるどころです。今後の市長のご活躍に期待したいものです。

「書のまち春日井」誇りに

ブックレット発刊 道風伝説など紹介

春日井市の歴史、文化を
学び発信している「ふるさ
と春日井学」研究フォーラ
ムが、ブックレットの第六



安達さんが「書のまち」の由来に迫
ったブックレット「春日井市内で

安達 柏亭

巻「書のまち春日井の書道文化 小野道風顕彰活動の記録」を発刊し、三十一日から市内の書店やネット通販で販売される。

今回は会員の書家安達柏亭さん(セシ)同市美濃町三が執筆。平安時代の能書家の小野道風が春日井で生まれたとされる伝承や、道風をたたえる活動を行った人々などを紹介し、市が「書のまち」と呼ばれる由来に迫った。

安達さんは道風顕彰活動に貢献した書家藤田東谷さんの弟子。高校教員や市文

化財課職員を経て、現在は愛知文教大(小牧市)で教える。「道風の伝説や書が盛んな理由を知ってもらい、誇りに思ってもらえれば」と期待する。A5判六十二ページ。税込み七百七十円。

また、安達さんは二十一日から、市役所隣の文化フォーラム春日井で書作展を開く。安達さんが代表幹事を務める春日井書道文化研究所の所蔵品展も併せて開催し、冊子の執筆のために収集した資料が並ぶ。二十六日まで。(磯嶋康平)

(中日新聞)3月21日付け掲載記事

《講演要旨》

書のまち春日井の書道文化

「ふるさとの誇り“道風さん”のことを知り、語り継ぐために」と前置きをされながら以下のような項目について解説されました。

～小野道風と顕彰活動の記録～



春日井書道文化研究所
安達 柏亭

小野 道風

おののとうふう
みちかぜ

・小野道風という人

名前の呼び方「おののとうふう」は通称、正式な呼び方は、「おののみちかぜ」である。※道＝トウ（漢音）、ドウ（呉音）であるが、平安時代は、漢音で読むのが一般的である。※の＝姓と名前の間に「の」を入れて読む。これは、朝廷から賜った時代からのならわしである。



・小野道風の肖像-どんなお顔でどんな姿？

道風の肖像画には、伝頼寿法橋筆、伝小野泰時筆、柳と蛙の図などがある。泰時筆は、観音寺に所蔵されている。

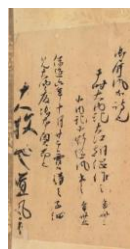
・道風の略歴-いつ生まれ、どのような生涯だったか

生没年は、894年～966年 73歳である。官位は、正四位下 内蔵頭（公卿は三位以上及び参議）三蹟の藤原佐理は35歳で参議、41歳で従三位、藤原行成は、30歳で参議、で参議42歳で正三位、のち権大納言になっている。道風の出世は遅いものであった。

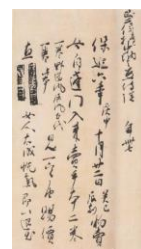
・小野氏の先祖・家系

先祖に小野妹子がいる。朝廷に仕え、外交、軍事に貢献した小野氏の始祖である。妹子以降も家系に代々外交・軍事に功績をあげるが、文芸、書芸に長じた人物も輩出した。祖父は小野篁（従三位、参議、852年歿）、父は葛（従四位上、太宰大貳、越前守）小野氏の人々は、博学で能書家が多かった。小野氏の遺跡は、ルーツが大和国を発祥としており、山城、近江へと広がったとされている。滋賀県大津市志賀町小野は、妹子以来の居住地とされており、妹子墓、や道風神社がある。

生没年の考証



屏風土代跋文

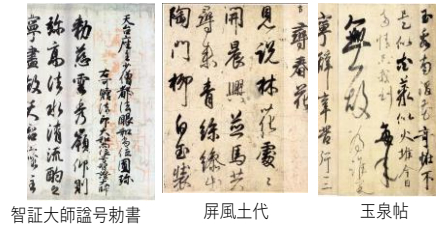


白氏詩巻跋文

・道風の書

国風文化の時代であり、894年菅原道真の建言により県と市が廃止された。以後すべての分野で国風化が進んだ。この年(894年)道風は誕生する。唐様主流のなかにおいて日本人に合う豊潤温雅な書風は、書聖：王羲之の書をもとに点画に丸みをもたせた拡張の高い書風として確立したものであった。和様書の創始者として位置づけられるものである。

道風の書



道風の漢字書跡には、直筆が5点あるといわれている。道風研究者の第一人者であった春名好重氏(道風記念館顧問)の考証によるが他に数点を加える説もある。道風は伝称筆者(道風を筆者と伝えられてきた)とされる筆跡が多い。これは、道風が有名であり尊重されてきた証である。

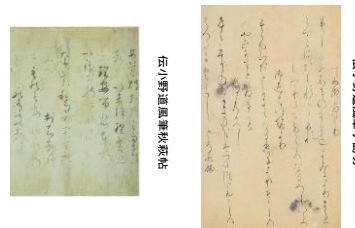
・伝道風のかな書跡

道風の真筆といえる“かな”はない。道風の時代のかなは、いわゆる古体仮名であって

伝道風筆のかな書跡



伝道風筆のかな書跡



洗練された“かな”はなかったとされている。従って全て“伝道風筆”である。

・春日井の誇りⅠ・・・生誕伝説

① 春日井で生まれたという伝承

誕生伝説地の記述には「松河戸」と「上条」がある。『尾張名所図会付録』にあるように、松河戸も上条も同じ地域を指しているとの記述により、同じ春日井市内である。

② 松河戸に伝わる宝物

「道風画像」「新樂府断簡」「法華経断簡」が観音寺(松河戸町)に伝わる。

顕彰活動功績者



・春日井の誇りⅡ・・・道風顕彰活動

顕彰活動のはじまりと功労者①澤井桂堂(名古屋の筆墨舗主人、遺跡保存と顕彰を提唱、書道の振興に寄与)②安藤直太郎(元春日井市教育長、郷土史家。著書に『小野道風』、研究面で功績)③藤田東谷と秋萩会(書家の側からの検証活動を推進、書道展開催など実務面で推進)④遺跡保存会(松河戸地区

で構成、遺跡の保存・整備や道風祭の催行)

・「道風生誕 1050 年祭」の記録

道風祭

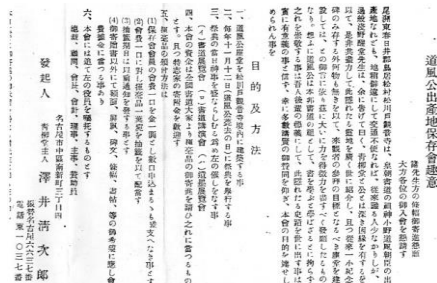
神式



仏式



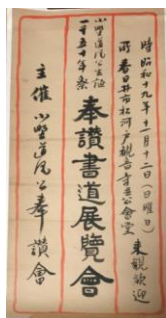
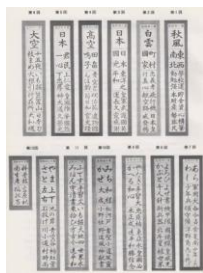
顕彰活動のはじまり



最も盛大だった顕彰活動の「生誕 1050 年祭」は、戦時下の昭和 19 年

11 月 12 日、松河戸か観音寺にて開催された。午前中に小野国民学校で学童競書会、午後は記念式典を開催した。関東・監査委・中京各代表の書家、名古屋市長はじめ各界の名士が参列した。

県下児童席上揮毫大会



1050年祭ポスター

春日井市道風記念館



・書道振興の関連事業

- ① 県下児童生徒席上揮毫大会 昭和 11 年から毎年連続して開催され、本年 88 回を迎える。
- ② 小野道風公奉賛全国書道展覧会 (道風展) 昭和 24 年に始まり、75 回継続している。
- ③ 春日井市文化連盟 (新年書初め大会) 昭和 25 年に始まり、60 回で閉幕

・春日井の誇りⅢ・・・春日井市道風記念館

- ① 道風文庫 (全国の著名書家からの寄贈作品等) の形成と保存・公開
- ② 豊富な書道関係資料『平成てかがみ』平成 6 年時点での全国の著名書家約 1100 人の書を網羅し、平成初期の書道界の全貌を見ることが出来る。43 帖の手鑑に仕立て道風記念館に収蔵している。
- ③ 道風書の貴重な原装複製を常時展示している。道風の書の全容を知ることが出来る。
- ④ 伝道風筆書跡をはじめ貴重な古筆の収蔵がある。

・顕彰活動の継承・書道の普及振興を全国へ発信

- ① 生誕 1100 年記念事業の成果を継承して行くこと
- ② 市民への書道文化の広がりを図る「書のまち春日井」の進化を図る

(記録・編集：河地 清)

春日井の誇れる文化「書道文化」を日常に

「良質な文化を地域の日常に」(2022. 6. 14 中日新聞) かすがい市民文化財団理事江本菜穂子氏が退任に際して語られた言葉である。安達柏亭氏の発表を聴いて、この地域が書道文化という文化性を有し、小野道風という歴史性と精神性をもった地域であることが改めて認識できた。2014年10月13日(日)第8回「小野道風—歴史の記憶と伝承—」で「松河戸誌研究会」の長谷川正己氏が地域の地域力とアイデンティティーを強調されたことと合わせて考えてみると、「書道文化」が春日井の文化的特色であることがよく理解できる。「書のまち春日井」のスローガンは、もはや立派な「ふるさと意識」であり、市民のアイデンティティーといっても過言ではない。

地域再生・活性化の条件は、歴史性、文化性、精神性が基礎である。その意味で、「書のまち春日井」のコンセプトは ONLY ONE の条件を満たしている。後はどのようなアプローチで振興を具現化して行くかである。ブランド化も一つです。いくつかのイメージが閃く。現在、市庁舎を中心とする鳥居松地域の商店街組合が、シャッター、街路灯に書作品をステッカーにして「街角メッセージ」の活動をされています。「書道文化」を暮らしの中に日常化して親しんでもらおうとする優れた実践です。「文化は観光を創造し、観光は文化を育てる」の言葉のとおり、その仕組みを考えることだ。広小路商店街＝典型的シャッター商店街を文字通りの「書のまち」に再生することだ。「そこにいけばすべてある」書を基軸とした小宇宙の創造である。市域のみならず全国の書道関係者が一度ならず二度三度とリピートする町並みを創ることだ。財団法人社会経済生産性本部刊「レジャー白書」(2008年)によれば書道人口800万人とも700万人ともいわれる。その人々のニーズを満たす環境づくりをすることだ。(価値受容へのナビゲート)が必要だ。JR春日井駅を降りると構内に市内の書家、児童の作品が鑑賞できる。正面ロータリーで「書のまち春日井」のシンボル「小野道風」の立像が迎える。書文化の臭いがするまちのイメージである。中央通りか弥生線沿いに広小路通りへの誘導路を整備する。街路沿線沿いに書のモニュメントが等間隔に設置され、書の世界へと誘う。10年続けられている街路灯添付の「街角メッセージ」活動は、学区の小学校、市内全高校書道部、中部大学書道部、公募の一般市民へと広がりを見せています。添付された書は、心を和ませる。振興策として、メイン通りには、趣の異なる各種ギャラリーがあり、文房七宝の専門店が、書道愛好者の全てのニーズを満たす。書関連の職人の集積、表具、額等の書関連業者が集中している。

「書のまち春日井」をイメージアップする方法は色々あるはずだ。(文責：河地 清)

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学

検索

